

36歳 女性

入院期間 2017.9.4~11.12

8年間の引きこもりから自信を取り戻して退院

幼稚園時から鉛筆が握れないほどの手の湿疹が生じ、ステロイドを外用使用。

小学校に入るとアトピー性皮膚炎は次第に全身性に拡大し、小学3年時からは喘息も加わるようになった。その後もステロイドとワセリン外用でコントロールし、高校では次第に色素沈着が生じてきたが、クラブ活動も可能だった。

大学に入学して一人暮らしを始めた頃から悪化。ステロイド外用も強化されたが色素沈着とこわばりが次第に拡大した。

就職後、20代後半にはステロイド外用の効果が次第に薄れ、アトピー性皮膚炎が持続するようになり脱ステロイドを決意。リバウンドでアトピー性皮膚炎は全身性に悪化し退職した。その後2年間は自宅で寝たきりの状態で過ごし、5年経過しても皮膚炎は持続。膿臭さが続いたこともあり、引きこもり生活が8年続いた。皮膚の乾燥と亀裂による痛みで起き上がるのも苦痛であった。

インターネットで当院を知り、九州の自宅から家族の手助けを得て受診し入院。

入院時の検査結果はIgE 34935、TARC 4396pg/ml、好酸球 15.9%、顔面を含む全身性の乾燥性皮膚炎であった。

脱ステから8年という長い年月で皮膚炎は慢性化し、滲出や発赤といった急性炎症はないが、角質化、苔癬化が進んで皮膚のコラーゲン組織が壊され、柔軟性や本来の肌理（キメ）が失われている。TARCは決して高くないが、脱ステロイド療法後この慢性の乾燥性皮膚炎で留まっている患者さんは多い。

入院後は痒みや亀裂の痛みによる不眠や、引きこもり生活からのコンプレックスもあり不安もあったが、多くの重症アトピーの患者さんと生活を共にしながら、BSCと食事療法で日々確実に改善していくことを実感され、疾患を克服できる確信と自信を取り戻して退院した。

退院時には、TARC1643、好酸球 11.3%に改善。皮膚の亀裂の痛みもなくなり、皮膚の柔軟性も回復した。

退院後1ヶ月半の時点では、皮膚は一層改善し2ヵ月後から就職するつもりだと話してくれた。

8年という自宅引きこもり生活が、ステロイドやプロトピックを使用することなく自然療法で自然免疫を賦活させることでコントロールできる時代になっていることを、より多くの方に知っていただきたいと思います。

	基準値	2017/9/4	2017/10/4	2017/11/9
TARC	450 以下	4396	↓ 2824	↓ 1251
LDH	120~245	380	↓ 276	255
IgE	170 以下	34935	↓ 25830	26495
好酸球	7%以下	15.9	16.9	↓ 11.8
POEM (自覚症)	0~28 最重症 20~28	28	↓ 18	↓ 10



